

# 国語科学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなる学級）

7人（1年男子2人，1年女子1人，2年男子2人，3年男子1人，4年男子1人）

指導者 木原 正晶 特別支援教育支援員 大久津 敬子

## 1 単元名 文をつくろう ～みんなで作ろうあすなるブック～

### 2 単元の目標

#### (1) 全体目標

- 文を書くときの大切なこと（「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」、「気持ち」）に気を付けて、文を書くことができる。
- 自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりして、様々な表現のよさに気付くことができる。
- 自分が書くことができるようになったことに気付いたり、友達と互いの文のよさを認め合ったりすることができる。

#### (2) 個人目標

A児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 活動の終了時刻や課題の完成形を示し見通しをもつことで、着席して学習に取り組んだり、友達の発表を聞いたりすることができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、助詞の表記の仕方に気を付けて書くことができる。</li></ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 事前に書いた文章を教師や友達と確認することで、自分の考えを友達の前で発表することができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、句点を打つことを忘れずに書くことができる。</li></ul>
C児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 事前に練習を行うことで、慌てずに落ち着いて発表することができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、促音の表記の仕方に気を付けて書くことができる。</li></ul>
D児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 教師と一緒に事前に文を書き確認することで、自分の考えを友達の前で発表することができる。</li><li>○ 自分が体験したことをVTRや写真を見て思い出し、教師と一緒に、主語、述語、修飾語の3語以上の文で書くことができる。</li></ul>
E児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 教師の言葉掛けや話の聞き方を示したカードを見ることで、友達の発表を最後まで聞くことができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、片仮名の表記の仕方に気を付けて書くことができる。</li></ul>
F児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「話を聞くときの声の大きさは何ですか。」と言葉掛けすることで、友達の発表を静かに最後まで聞くことができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、修飾語を使って詳しく書いたり、「楽しかった」以外の言葉で気持ちを表現したりすることができる。</li></ul>
G児	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 自分の考えと比べることで、友達の考えを聞いた感想などを発表することができる。</li><li>○ 自分が体験したことやそのときの気持ちをVTRや写真を見て思い出し、修飾語を使って詳しく書いたり、書いた文に誤字や脱字、表記の間違いが無いかを見直したりすることができる。</li></ul>

### 3 単元について

#### (1) 単元設定の理由

本学級は7人の異学年の子どもで構成されており、自閉症スペクトラムの他に知的障害を併せ有する子どもも在籍している。これまで、低学年の5人の子どもたちは、国語科の学習で平仮名や片仮名で身近な物の名前を書いたり、二語文や三語文の簡単な文を書いたりする学習に取り組んできている。その際、手本の文の視写をしたり、行事の感想を文に書いたりする活動を繰り返すことによって、書くことのできる言葉が増えたり、文を書くことへの意欲が高まったりしてきている。しかし、表記の間違いが多かったり、語彙が少ないため、どんな言葉を使って表現してよいか分から

なかつたりすることが課題である。中学年の2人の子どもたちは、漢字や日記、感想文、招待状など様々な表現様式の書く活動に取り組んできており、教師が提示した型に沿って文を書くことができるようになってきている。しかし、日記や行事などの感想文の内容は、事実だけを書き、最後に「楽しかったです。」という文を付け加えることが多く、自分の気持ちを上手く書き表すことは難しい。そこで、本単元では、文を書くときの大切なこと（「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」、「気持ち」）に気を付けて、文を書くことができるようにする。また、それぞれが考えた文を発表し合う活動に取り組み、多くの文に触れ、互いの文のよさに気付くことで、文字や文を書く力を伸ばしていくことができるようにする。さらに、活動を振り返り、自分が大切なことに気を付けて文を書けるようになっていくことに気付いたり、自分の頑張りを教師や友達に認めてもらったりすることで、書くことに対する自信や意欲を高めることができるようにする。

指導に当たっては、本単元を通して、一年間の学校生活の思い出を記録した大型写真集であるあすなろブックを作る活動を設定する。子どもたちがあすなろブックで、あすなろ学級の様子やあすなろ学級のみんなの頑張りを交流学級の友達や担任、家族に紹介するという目的や相手意識をもって活動することができるようにする。授業では、毎時間、導入段階において、「ぶんぶんマンからの挑戦状」を提示することで、個人のため（「今日頑張ること」）を意識して、意欲的に学習することができるようにする。また、終末段階では、互いの書いた文を発表し合い、多くの文に触れることで、表現のよさに気付くことができるようにする。さらに、自己評価カードで振り返りを行うことで、学習の積み重ねや自分自身の成長を実感できるようにする。活動においては、まず、文を書くときの大切なことに関する言葉探しゲームや組合せゲームをする。言葉探しゲームでは、絵や写真を見て「いつ」、「どこで」、「どんな〇〇が」、「何をしているか」、「何と言っているか」、「どんな気持ちだったか」という観点で言葉探しすることで、文を書くときの大切なことに気付くことができるようにする。次に、「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」の組合せゲームに楽しみながら繰り返し取り組むことで、文を書くときの大切なことを意識したり、語彙を増やしたりすることができるようにする。次に、友達との楽しかった共通体験（調理活動）を題材にして意欲的に書く活動に取り組むことで、文を書くときの大切なことの定着を図ることができるようにする。その後、あすなろブックを作る活動に取り組む。その際は、五十音表や平仮名、片仮名の表記カード、助詞の使い方を示した掲示物、マス目が入ったワークシート、主語や述語になる言葉カード、手本の文など準備しておくことで、実態に応じた指導ができるようにする。また、あすなろブックは、年間を通して完成を目指して作成を続けていくことで、文を書くことへの意欲や関心を持続させていくことができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちが、目的や相手意識をもって書くことの楽しさや達成感を味わうことができると考える。また、日常生活での出来事や体験をこれまでより上手く文で書けるようになると、言葉の世界が広がり、これからの国語科の学習への意欲が高まり、文章表現が豊かになっていくものと考えられる。

## (2) 子どもの実態

	教育的ニーズ	関心・意欲・態度	聞く・話す	読む	書く
A 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>離席をせずに落ち着いて学習に参加することができるようになること。</li> <li>主語と述語の対応した文を書くことができるようになること。</li> <li>平仮名の濁音、拗音、促音、撥音を書くことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を読んだり、色塗りをしたりする学習では、10分程度着席して活動することができるようになってきている。</li> <li>音読は自分から進んで取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の話や友達の発表を最後まで着席して聞くことは苦手である。</li> <li>教師や友達との会話は、理解することができる。</li> <li>教師の読み聞かせは、落ち着いて聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は全部読むことができる。</li> <li>片仮名の9割を読むことができる。</li> <li>初見の文でも拾い読みではなく、単語としてのまとまりを考えながら音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名はほぼ全部書くことができるが、鏡文字になることもある。</li> <li>濁音は書くことができるようになってきている。</li> <li>「わたしわ」と助詞の「は」を「わ」と書くことがある。</li> <li>文末の句点を忘れてしまうことがある。</li> </ul>

	教育的ニーズ	関心・意欲・態度	聞く・話す	読 む	書 く
B 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の前で発表できるようになること。</li> <li>主語、述語の対応した文を書くことができるようになること。</li> <li>平仮名の濁音、拗音、促音、撥音を書くことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名だけでなく、アルファベットや数字を自由帳に書いていることがある。</li> <li>なぞり書きをするときには、はみ出さないように意識して書くことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて教師や友達の発表を聞くことができる。</li> <li>恥ずかしかったり、緊張したりして、一人で発表することは苦手である。</li> <li>低緊張の影響で、聞く姿勢が崩れてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は全部読むことができる。</li> <li>片仮名の9割を読むことができる。</li> <li>ゆっくりではあるが、単語としてのまとまりを意識しながら、音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は全部、片仮名は8割を書くことができる。</li> <li>自分の発音通りに書いてしまい表記間違いすることがある。(ところ→ところ〇ど、こない→〇きない)</li> <li>句点を打ち忘れてしまうことが多い。</li> </ul>
C 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて発表したり、話を聞いたりできるようになること。</li> <li>平仮名を読んだり書いたりできるようになること。</li> <li>平仮名の濁音、拗音、促音、撥音を読んだり、書いたりできるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本などは、絵だけを見て、文字は読んでいないことが多い。</li> <li>友達の様子が気になってしまったり、字が雑になったり、間違った字を書いたりしてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>慌ててしまい最後まで発表できなかつたり、教師や友達の話の聞かなかつたりすることがある。</li> <li>聞き逃したり、分からなかつたりしたことを自分から聞き返すことは少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は9割読むことができる。</li> <li>片仮名の5割程度を読むことができる。</li> <li>音読は、一文字ずつ拾い読みをしていて、単語としてのまとまりでは読めていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形は崩れている字もあるが、平仮名は9割書くことができる。</li> <li>観察して書くことが好きである。</li> <li>促音を書くことが苦手である。(つくって→つくて、とった→とた)</li> </ul>
D 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の前で発表できるようになること。</li> <li>平仮名を読んだり書いたりできるようになること。</li> <li>片仮名を読むことができるようになること。</li> <li>主語、述語の対応した文を書くことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色塗りや視写などするときには、はみ出したり間違ったりしないように丁寧に取り組むことができる。</li> <li>平仮名や片仮名などなかなか覚えられないことにあせり、自信をもてずに、活動していることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表するときに、恥ずかしかったり、緊張したりして机の下に隠れてしまうことがある。</li> <li>発音が不明瞭で話したことが伝わらないことがある。</li> <li>話を聞いただけではその内容を理解することが難しい。</li> <li>集中して話を聞くことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は9割読むことができる。</li> <li>片仮名は2割程度読むことができる。</li> <li>十までの漢字や、曜日を表す漢字は少しずつ読めるようになってきている。</li> <li>音読は、一文字ずつ拾い読みをしていて、単語としてのまとまりでは読めていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は半分程度書くことができる。</li> <li>片仮名は、ほぼ書くことができない。</li> <li>手本を視写したり、教師と一緒に考えたりしながら文を書く練習をしている。また、分からない文字は五十音表を使って、確認しながら書く学習に取り組んでいる。</li> </ul>
E 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢で話を聞くことができるようになること。</li> <li>平仮名や片仮名を読んだり書いたりできるようになること。</li> <li>字形を整えて文字を書くことができるようになること。</li> <li>主語、述語の対応した文を書くことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上学年で学習する漢字や長い文を自分から進んで、書こうとすることがある。</li> <li>平仮名や片仮名など基礎の練習を嫌がっていて、なぞり書きや視写などに集中して取り組めないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低緊張から聞く姿勢が崩れてしまったり、話す人を見ることができなかつたりすることがある。</li> <li>自分から積極的に発表しようとすることができる。</li> <li>発音が不明瞭で話したことが伝わらないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名はほぼ全部読むことができる。</li> <li>片仮名は5割程度読むことができる。</li> <li>十までの数字や、曜日を表す漢字は読めるようになってきている。</li> <li>単語としてのまとまりで音読することができるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形は崩れているが、平仮名はほぼ全部書くことができる。</li> <li>片仮名は5割程度書くことができる。文を書く際には、平仮名で書いてしまうことがある。(プール→ぷうる)</li> <li>「は」と「わ」の表記の仕方が定着していない。(おわたたら→おはつたら)</li> </ul>

	教育的ニーズ	関心・意欲・態度	聞く・話す	読む	書く
F 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静かに最後まで話を聞くことができるようになること。</li> <li>・ 事実だけでなく、気持ちや考えを入れて文を書くことができるようになること。</li> <li>・ 友達の発表を聞いて、感想を言うことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字に関心が高く、平仮名、片仮名だけでなく、アルファベットを書くことができる。</li> <li>・ 特定の本を繰り返し読み返すことが好きである。</li> <li>・ 漢字の部首や難しい漢字を覚えることが好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師や友達の話を聞くときに、静かに聞けずに、独り言を言っていることが多い。</li> <li>・ 教師や友達との会話は、理解することができている。</li> <li>・ 相手に聞こえるように声の大きさを考えて発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平仮名、片仮名、2年生までの漢字は全部読むことができる。</li> <li>・ 2年生までの教科書はすらすら音読することができる。</li> <li>・ 気に入った表現や、リズムのある文を見付けると暗唱することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平仮名、片仮名、2年生までの漢字は9割書くことができる。</li> <li>・ 文を書くときは、一人ではなかなか書き始めようとしない。教師と話し合ったり、書き出しを提示したりすることで、書くことができる。</li> </ul>
G 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の考えを聞いた後に、感想を伝えたり質問をしたり、意見を付け加えたりすることができるようになること。</li> <li>・ 体験したことだけでなく自分の気持ちを主語・述語・修飾語の対応した文で書くことができること。</li> <li>・ 書いた文が正しいかどうか見直すことができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情緒面で安定せずに学習に集中して取り組むことができないことがある。</li> <li>・ 落ち着いて読書することが苦手である。読み飛ばしたり、途中で飽きてしまったりして、最後まで読むことができない。</li> <li>・ 感想文や日記を書くことは好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師や友達の話を聞いて、分からないことを質問したり、感想を発表したりすることができる。</li> <li>・ 相手やその場の状況に応じて、「です」や「ます」を使って丁寧な言葉で話すことができるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平仮名、片仮名、2年生までの漢字はほぼ全部読むことができる。</li> <li>・ 振り仮名を付けることで、3年生までの教科書はすらすら音読することができる。</li> <li>・ 初見の文でも拾い読みではなく、単語としてのまとまりを考えながら音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平仮名、1年生までの漢字は9割書くことができる。</li> <li>・ 片仮名は、形の似ている文字を正しく書くことが難しい。</li> <li>・ 日記や感想文は平仮名だけで書いてしまう。</li> <li>・ 誤字や脱字、表記間違いに気付く訂正することが難しい。</li> </ul>

#### 4 指導に当たって

##### (1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画、国語科のチェックリストを活用することで、それぞれの子どもたちの課題を明確にし、実態に応じた個人目標を設定し、一人一人の「自分事の問い」を想定する。
- ・ 「かけたかな」カード（自己評価カード）には、単元を通して意識させたい大切なポイントを明記し、子どもたちがそれを基に個人のめあて（「今日頑張ること」）を設定することができるようにする。また、毎時間の終了時にできたかどうかを記録することで、できたことやできるようになったことを確認し、次時の個人のめあてを設定する際に活用することができるようにする。
- ・ 評価資料を作成することで、教師の手立てや子どもの学習状況を振り返り、次時の「自分事の問い」につながる個人のめあてを設定する。

##### (2) 「自分事の問い」の解決につながるための「学び合い」の設定【研究内容2】

- ・ 授業の中で作成した文を発表する「伝え合う場」を設定する。その際に「聞く」、「伝える」ために必要な技能を絵カードで可視化して提示したり、できたら称賛するなどの言葉掛けを繰り返し行ったりしていくことで、「学び合い」の基礎となるソーシャルスキルを身に付けていくことができるようにする。
- ・ 自他のよさを見付け、伝え合ったり認め合ったり場を設定することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）の解決につなげることができるようにする。

##### (3) 自己の変容を実感できる評価の在り方【研究内容3】

- ・ 単元を通して「かけたかな」カードを活用し自己評価をすることで、個人のめあて（「今日頑張ること」）の達成やこれまでの成果を実感することができるようにする。また、友達にも評価してもらうことで、お互いのよさに気付いたり認め合ったりして、自信をもって活動することができるようにする。

5 指導計画（総時数11時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容		子どもの意識
		A・B・C・D・E児	F・G児	
一 次	1	<b>【指導のねらい】</b> ○ 「ぶんぶんマンからの挑戦状」や「あすなる学級の1年」連想ゲームを通して、あすなるブック作成への見通しと意欲をもつことができる。		交流学級の友達や担任にあすなる学級のことを教えるために、頑張ってあすなるブックを作ろう。そのためにすることや、学習の流れが分かったよ。 【全児童】
		<b>【活動内容】</b> 1 音読をする。 2 言葉遊びをする。 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 単元マップを見て、学習計画を知り、あすなるブック作成への見通しをもつ。 5 「あすなる学級の1年」連想ゲームをする。 6 振り返りをする。	1～2までの活動は、単元を通して行っていく。	
二 次	2・3	<b>【指導のねらい】</b> ○ 教師や友達と一緒に、文を書くときの大切なこと（「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」）を表す言葉を考えることができる。	<b>【指導のねらい】</b> ○ 教師や友達と一緒に、文を書くときの大切なこと（「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」、「気持ち」）を表す言葉を考えることができる。	「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」を表す言葉は、どんなものがあるかな。 【A・B・C・D・E児】
		<b>【活動内容】</b> 第2時 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 言葉探しゲームをする。 5 振り返りをする。 第3時 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 「いつ・どこで・だれが・どうした」の組合せゲームをする。 5 振り返りをする。	<b>【活動内容】</b> 第2時 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 言葉探しゲームをする。 5 振り返りをする。 第3時 1～2の活動の後に 3 「いつ・どこで・だれが・どんな気持ちで・どうした」の組合せゲームをする。 4 振り返りをする。	
	4・5・6	<b>【指導のねらい】</b> ○ 共通体験をしたVTRを見て、体験したことや思ったことを、文を書くときの大切なことに気を付けて、書くことができる。	<b>【指導のねらい】</b> ○ 共通体験をしたVTRを見て、体験したことだけでなく思ったことを、文を書くときの大切なことに気を付けて、書くことができる。	みんなで料理をしたときの様子だな。「いつ」、「どこで」の言葉が書けそうだ。 【A・B・C・D・E児】
		<b>【活動内容】</b> 第4時 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 ポップコーン作りをする。 5 ポップコーン作りの感想や、頑張ったことを発表する。 第5時 1～2の活動の後に 3 VTRを見て、そのときの様子を思い出す。 4 様子に合う言葉を考える。 第6時 1～2の活動の後に 3 考えた言葉を使って文を書く。 4 文を発表する。	<b>【活動内容】</b> 第4時 左記同様 第5時 1～2の活動の後に 3 VTRを見て、そのときの様子や気持ちを思い出す。 4 様子や気持ちに合う言葉を考える。 第6時 1～2の活動の後に 3 考えた言葉を使って文を書く。 4 文を発表する。	料理の作り方とおいしかったという気持ちを書くぞ。 【F・G児】  文を書くときの大切なことが分かったら、書けるようになってきたぞ。 【全児童】
三 次	7・8・9・10	<b>【指導のねらい】</b> ○ これまでの行事の写真を見て、体験したことや思ったことを、文を書くときの大切なことに気を付けて書くことができる。	<b>【指導のねらい】</b> ○ これまでの行事の写真を見て、体験したことと自分が感じた気持ちを、文を書くときの大切なことに気を付けて書くことができる。	この写真には、どんな言葉が合うかな。【全児童】  ○○くんは、「つ」という字の書き方に気を付けて、運動会のことを書いているかな。 【全児童】  みんなから「よく書けるね。」と言われてうれしいな。次も頑張るぞ。 【全児童】
		第7時 出合いのページを作成する。 第8時 合同宿泊学習のページを作成する。 第9時 運動会のページを作成する。（本時3／4） 第10時 合同遠足のページを作成する。 <b>【活動内容】</b> 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見る。 4 写真を見て、そのときの様子や気持ちについて、知りたいことを聞いたり、詳しく話したりする。 5 書いた文を読み直す。 6 書いた文を発表する。 7 振り返りをする。		
四 次	11	<b>【指導のねらい】</b> ○ 頑張ったことを発表し合い、これまでの頑張りを認め合うことができる。 ○ これからのあすなるブック作成への意欲をもつことができる。		これからも頑張って、あすなるブックを完成させるぞ。文を書くときの大切なことに気を付けて、日記や感想文を書いてみたいな。 【全児童】
		<b>【活動内容】</b> 1～2の活動の後に 3 「ぶんぶんマンからの最後の挑戦状」を見る。 4 挑戦状に合格して、合格証をもらう。 5 これまでに作成したあすなるブックを見る。 6 自分が頑張ったことや友達の良いところを発表する。 7 これから先の行事を知り、みんなで協力して作成していくことを確認する。		

6 本 時 (9 / 11)

(1) 全体目標 ○ 体験したことや思ったことについて、文を書くときの大切なことに気を付けて書くことができる。

A児	体験したことや思ったことを、助詞の「は」の表記の仕方に気を付けて書くことができる。
B児	体験したことを、句点を打つことを忘れずに書くことができる。
C児	体験したことを、促音の表記の仕方に気を付けて書くことができる。
D児	体験したことを、教師と一緒に3語以上の文で書くことができる。
E児	体験したことや思ったことを、片仮名に気を付けて書くことができる。
F児	体験したことだけでなく思ったことを、気持ちを表す言葉のカードを見ながら書くことができる。
G児	体験したことだけでなく思ったことを、気持ちを表す言葉を工夫して書くことができる。

個人目標

(2) 展開 ○ 数字は、「自分の事の違い」に対するしかけ (1)教材・教具 (2)発問 (3)場 (4)連携 ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児
つかむ・見通す (15)	<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>2 音読をする。 ・一人で読む ・全員で読む ・交互に読む</p> <p>3 言葉遊びをする。</p> <p>4 本時のめあてを確認する。</p> <p>文を書くときの大切なことに気を付けて、あすなるブックの「運動会」のページを書こう。</p> <p>(1) めあてを声に出して読む。 (2) 文を書くときの大切なことを確認する。 (3) 個人のめあて (「今日頑張ること」) を確認する。</p>	<p>① 黒板に学習の流れを掲示することで、見通しをもって学習に参加することができるようにする。</p> <p>① ☆ 電子黒板で音読する文を提示することで、集中して音読することができるようにする。</p> <p>① 様々な形態の音読をすることで、楽しみながら繰り返し音読練習をすることができるようにする。</p> <p>① 動きを取り入れた活動を行うことで、飽きることなく活動に取り組み、楽しみながら語彙を増やしたり、言葉に関する興味や関心を高めたりすることができるようにする。</p> <p>② 「文を書くときの大切なこと、何だったかな。」と発問することで、これまで学習してきた文を書くときの大切なこと (「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」「気持ち」) を思い出すことができるようにする。</p> <p>① ☆ 「ぶんぶんマンからの挑戦状」を見ることで、本時の学習内容が分かり、意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p>① 「かけたかな」カード (自己評価カード) を活用することで、個人のめあて (「今日頑張ること」) を明確にもつことができるようにする。</p> <p>① それぞれの顔写真と個人のめあて (「今日頑張ること」) を黒板に貼ることで、常に意識しながら学習することができるようにする。</p>	<p>① 写真に合う名前や気持ちを準備して、カードを並べて文を作り、書くことができるようにする。</p> <p>① 促音の表記の仕方を提示したヒドカードにすることで、促音をよく書くことができるようにする。</p> <p>② 「文の最後には忘れないように付けるのは、何か。」と発問することで、正しく書くことができるようにする。</p> <p>① 助詞「は」の表記の仕方を示したカードを参考に、正しく書くことができるようにする。</p> <p>② 「文の最後には忘れないように付けるのは、何か。」と発問することで、正しく書くことができるようにする。</p> <p>① 発表する際には、書いた文を書画カメラで映し、友達が書いた文を見ることができ、自分の書いた文との違いや友達の頑張り、できたこと等が分かるようにする。</p> <p>① ③ 発表の際には「声のもしさ」カードや「静かに聞く」カード等を個に応じて提示することで、声の大きさや聞くときの態度に気を付けて発表し合うことができるようにする。</p> <p>② ③ 「友達が『今日頑張ること』ができていたか、確認してみよう。」と発問することで、個人のめあて (「今日頑張ること」) に着目して、友達の文を見ることができるようになる。</p> <p>① 「かけたかな」カード (自己評価カード) を使って活動を振り返ることができるようになる。</p> <p>① ④ 単元全体を通して良かったところを称賛することで、国語以外の学習や家庭学習でも、文を書いてみたいという思いを高められるようにする。</p>	<p>① 片仮名五十音表カードを準備しておくこと、書きたい言葉を片仮名で書くことができるようにする。</p> <p>① 教師が準備した気持ちのあるカードを見ることができ、自分の気持ちを表すことができるようにする。</p> <p>② 「このときの気持ちを詳しく教えて」と発問することで、自分の気持ちを表し、書くことができるようにする。</p>				
活動する (20)	<p>5 運動会の写真を見て、文を書く。</p> <p>6 書いた文を発表する。【学び合い】</p> <p>友達が「今日頑張ること」をできていたか確認してみよう。</p> <p>「うっれし」という気持ちを書いてあるね。</p> <p>運動会の時の気持ちを書くことができたぞ。</p>	<p>① 友達が「今日頑張ること」をできていたか、確認してみよう。」と発問することで、個人のめあて (「今日頑張ること」) に着目して、友達の文を見ることができるようになる。</p> <p>① ④ 単元全体を通して良かったところを称賛することで、国語以外の学習や家庭学習でも、文を書いてみたいという思いを高められるようにする。</p>						
振り返る (10)	<p>7 本時の活動を振り返る。【自己評価・相互評価】</p> <p>今日も大切なことに気を付けて、文を書くことができたぞ。次の時間も楽しみな。</p> <p>8 次の活動について知る。</p>	<p>① 友達が「今日頑張ること」をできていたか、確認してみよう。」と発問することで、個人のめあて (「今日頑張ること」) に着目して、友達の文を見ることができるようになる。</p> <p>① ④ 単元全体を通して良かったところを称賛することで、国語以外の学習や家庭学習でも、文を書いてみたいという思いを高められるようにする。</p>						